

青年・学生の大反乱



ギリシャ・韓国に続け！

「1%」のための「緊縮案」を拒否！

7月5日のギリシャ国民投票は、EUが強制する「緊縮案」を拒否する世界史事態です。労働者民衆から雇用・年金・福祉を奪って、「1%」の資本家がぼろ儲けするための「支援マネー」である「緊縮案」に対し、ギリシャ労働者は「OXI (=NO)」のスローガンを掲げてデモに立ち上がり(写真上)、若年層の約7割が、アテネ市内の労働者街では実に8割が反対票を投じました。

これまで幾度も「生きさせろ！」のデモとゼネストを叩きつけて不屈に闘い続けてきたギリシャ労働者の決起がついに「緊縮案」を粉砕しました。今こそ、「99%」の労働者民衆が社会のすべてを奪い返す時です。



「緊縮財政は終わり」の横断幕を掲げるギリシャ労働者

労働者民衆の闘いが社会を変える

世界中で戦争と大失業・貧困への怒りが燃え広がっています。4月24日に韓国でゼネストを巻き起こした民主労総(80万人)が、7月15日に再びゼネストに立ち上がります。安倍政権は、「朝鮮半島有事」を想定した戦争法案の衆院強行採決を狙っています。全世界の労働者と連帯し、7.15国会闘争で安倍を倒そう！

「労働者を殺すパククネ政権を倒す」



韓国・民主労総

7.15ゼネストに立ち上がる！

7・14法政大包囲デモ

7月14日(火) 12時40分～ 13時出発
@法政大学・市ヶ谷キャンパス前

全学連

全日本学生自治会総連合(斎藤郁真委員長)

03-3651-4861 mail_cn001@zengakuren.jp <http://www.zengakuren.jp>

「単位-就活-奨学金」の鎖を引きちぎり 授業をぶっ飛ばして7.15国会へ！

大学こそが学生の未来を奪っている！

戦争法と安倍政権への怒りは日に日に高まり、多くの人々が国会を包囲し、青年・学生も行動を始める中で、大学が果たしている役割は一体何でしょうか？

①高い学費＝学生と家族の人生を奪う

高額な学費は、学生と家族の生活を直撃し、バイト漬けでまともに大学にも通えない転倒した現実を生み出しています。それと完全に一体で、学生を「モノ」のように扱う「ブラックバイト」が蔓延しています。

②奨学金＝借金地獄に叩き込み最後は戦場へ

奨学金は、学生と家族をますます貧困に叩き落とし、学生に数百万円の借金を背負わせて社会に放り出しています。

そして今、「奨学金を返せない学生を自衛隊のインターンシップへ」という「経済的徴兵制」が叫ばれ、「現代の学徒動員」が始まろうとしています。

③弾圧・処分＝最大の「大学の戦争協力」

大学は学生を「授業-就活-奨学金」で縛りつけ、学生同士が政治について討論する時間も場所も奪っています。

法政大学では、この大学のあり方を変えるために、「126名の逮捕-13名の処分」という「戦時下の学生弾圧」を学生の団結で打ち破って勝利してきました。大学を変え、戦争を止める展望がここにあります。

「静穏な教育環境」こそ戦争への道だ！

6月29日、裁判所は法政大学で「無期停学」処分を受けた武田雄飛丸君(法政大学文化連盟委員長)の処分撤回を求める裁判の判決で、「静ひつ(＝静穏)な教育環境を妨害したから処分は正当」とする反動判決を下しました。

今まさに、「静穏な教育環境」の名のもとで軍事研究が行われ、大学から戦争が始まっている時に、「学生は声をあげるな」ということです。これが戦争に突き進む安倍政権と大学の腐りきった姿です。

学生の怒りを抑えつけ、授業やテストで学生を多忙化させて政治を奪う。まさにこの「静穏な教育環境」こそが戦争への道です。だからこそ、すべての学生に「授業をぶっ飛ばして7.15国会へ集まろう」と訴えます！



多くの学生が結集した6・15国会デモ

強行採決阻止！安倍たおせ！

《7・15国会包囲大闘争》

7月15日(水) 9時～

議員会館前で座り込み開始

12時～13時

霞ヶ関デモ(11時半に日比谷公園霞門集合)

15時～17時

議員会館前で国会への抗議集会

【主催】全国労組交流センター、全学連

